

OISTER 観測企画運営委員会の 活動報告

村田 勝寛(京都大学)、

久保田尚之、高木聖子(北海道大学)、大朝 由美子(埼玉大学)、瀧田怜(東京大学)、
高橋一郎(東京科学大学)、楠根 貴成(名古屋大学)、野上 大作(京都大学)、高橋 隼(兵庫県立大学)、
中岡 竜也(広島大学)、永山 貴宏(鹿児島大学)、花山 秀和、早津夏己(国立天文台石垣島天文台)、
泉浦秀行(国立天文台)、太田耕司(京都大学)

観測企画運営委員会とは

光赤外線天文学大学間連携規約より一部引用

本事業に参加している組織から1-2名を選出し、事業を円滑に進める現場レベルの実務担当を担う観測企画運営委員会を設置する。

本委員会で方針や決まり事などを審議・提案し、運営協議会および他のメンバーへの了承を得る形で事業を進める。

<以下略>

観測企画運営委員会の活動

観測企画運営委員会の開催（1-2ヶ月に1回、今年度は7回開催）して以下を進めている。

今年度の新たな取り組み・相談は赤字

- 観測提案の募集、検討会・進捗報告会の開催
- 教育プログラムの開催（明日午後にセッション）
 - 短期滞在実習（今年度はNAOJハワイ観測所協力のもと学生2名がハワイ観測所で実習。国内機関で2名実習予定）
 - 装置開発講習会（今年度は未開催）
- データ解析講習（中岡さんからご報告、延べ43名参加）
- OISTER談話会
- ワークショップの開催、準備、旅費補助のための外部資金申請
- マルチメッセンジャー関係の情報共有
- データサイエンス講習会、分光実習、機械学習講習会の開催検討
- OISTER web, wikiの管理・更新
- データ共有WebDavの管理
- 望遠鏡・解析自動化 委員会中心に提出した科研費基盤B、NAOJ共同開発研究は不採択、OISTER全体としての進捗はなし。次回の科研費に向けて相談中

OISTER観測提案の募集

- 申し込み資格者:PIはOISTER所属機関、Co-PI は機関外であっても可
- ToO (突発現象)とキャンペーン (time critical) の2 種
- せいめい望遠鏡の募集 に合わせて、定期募集 (年二回)と随時募集
- 提案は1年有効
- ToOに限り、随時募集を受け付け
- 観測受け入れ可否は各機関の裁量

次回の募集は4-5月頃メ切

観測提案メ切後に観測検討会を開催:PIが実現したい観測を相談。各機関の望遠鏡・装置の向き・不向きを確認。逆提案もある。観測イメージを共有し、円滑な観測を促す。PI (参加がどうしても難しい場合は Co-PI, Co-I) が必ず出席。

観測提案の応募数

24年6月期 4件
このうち学生PI・Co-PIは0件

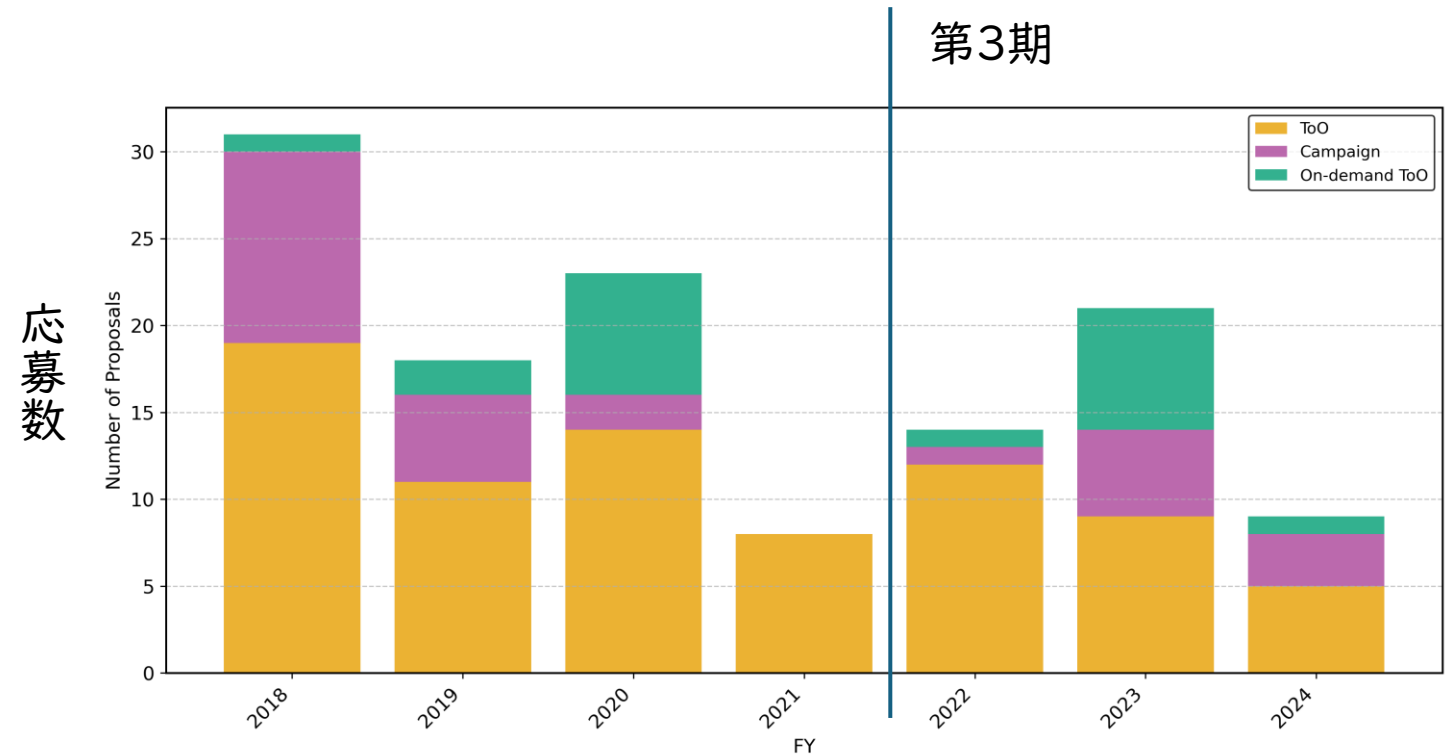
- ToO 0件
- キャンペーン 3件
- 随時募集ToO 1件

24年11月期 5件
このうち学生PI・Co-PIは1件

- ToO 5件
- キャンペーン 0件
- 随時募集ToO 0件

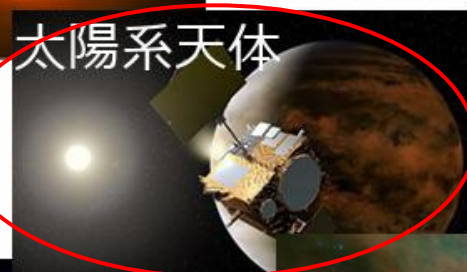
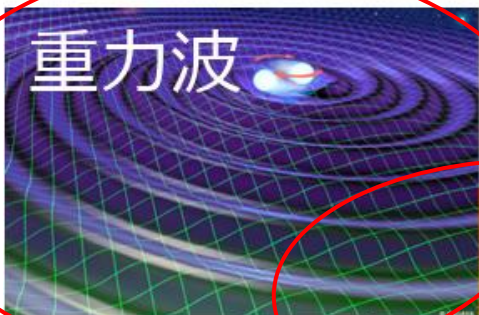
23FYは例年並みの提案数に戻っていたが、24FYは減少。2018FY以降では2番目に少ない状況に。

2018FY以降の観測提案の応募数の推移（年度で集計）

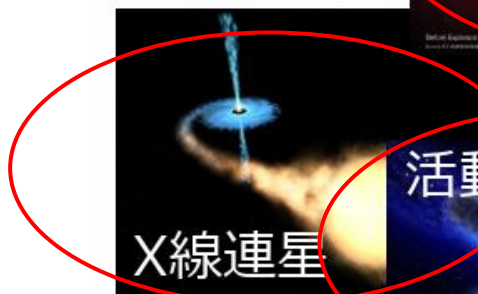


18FY以降をOISTER wikiをもとに作成
2024/12/07時点
発動されていない提案も含む
18FYは3回募集あったため提案数が多い
21FYは6月メ切の1回のみ募集

時間領域天文学（突発・変動現象研究）



赤丸は観測提案が応募されている and/or 観測されている



FRB

観測提案に基づき実施された観測件数

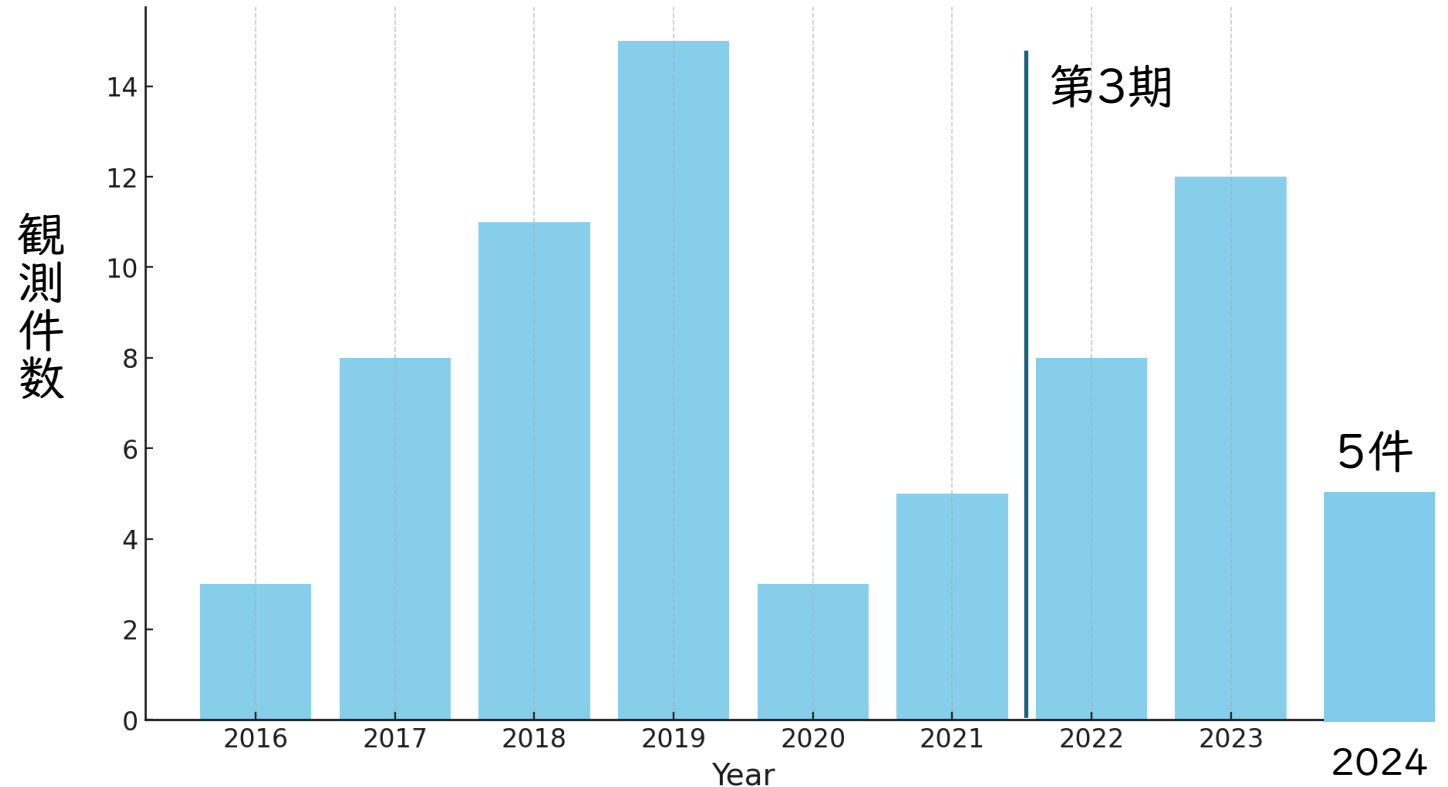
24FYの観測件数 5件
(うち2件は23FYからの継続モニター)

- ToO 3件
- キャンペーン 2件

天体種類

- X線連星 1件
- 超新星 1件
- AGN・ブレイザー 2件
- 太陽系天体 1件

ToO・キャンペーン観測件数の推移(年度で集計)



16FY-22FYはOISTER観測まとめテーブルの情報をもとに年度単位で作成
2024/12/8時点で集計
観測発動一回で複数天体観測した場合も1としてカウント

進捗報告会の開催

- 観測を発動したPIが観測と解析の状況、研究の進捗、論文化の見込みなどを報告
- 機関側としては望遠鏡・装置ごとのデータ使用状況を把握でき
- 提案者側も得られたデータについて相談できる

zoom開催、OISTERメンバーどなたでも参加可（MLで通知）

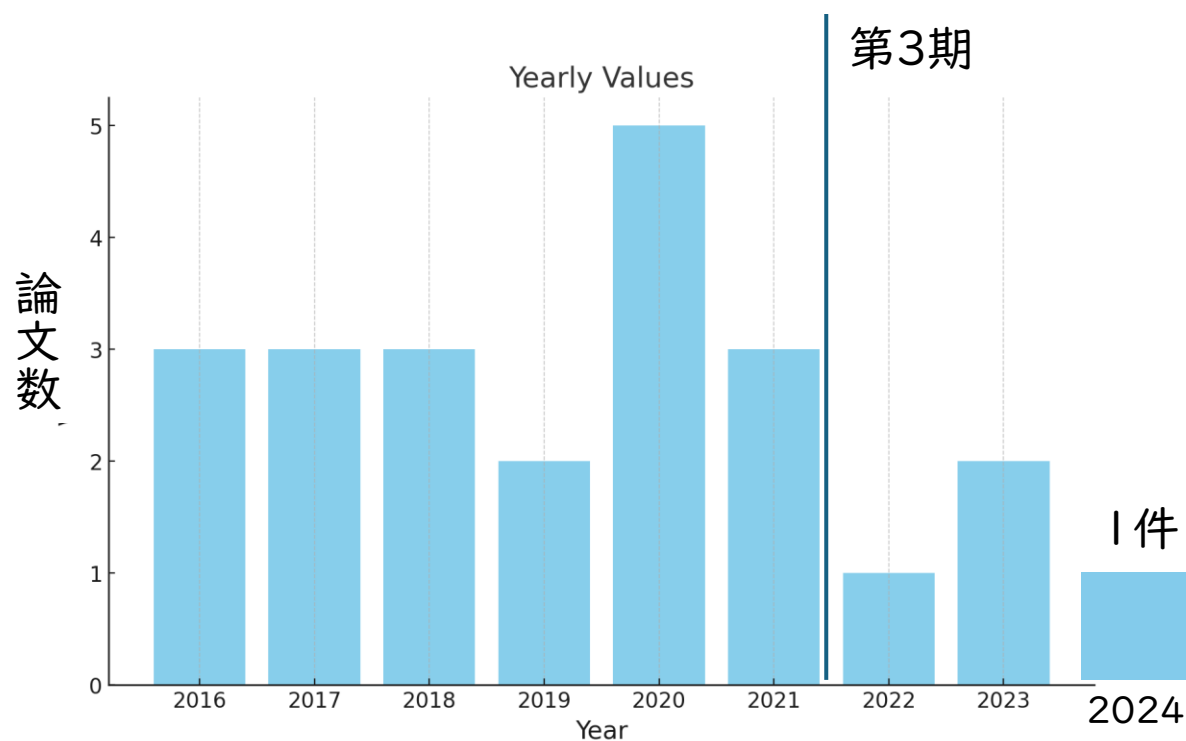
2024年度

5月 口頭報告 6件、書面報告 5件

11月 口頭報告4件、書面報告 6件

OISTER ToO・キャンペーン観測にもとづく査読論文数の推移

ToO・キャンペーン観測の査読論文数の推移 (年度で集計)



ToO・キャンペーン観測にもとづく24FY出版の査読論文
1件

- Yoshitake et al., 2024, PASJ, “Evolution of accretion disk structure of the black hole X-ray binary MAXI J1820+070 during the rebrightening phase”

Horiuchi et al. 2024, accepted, QSO長期モニター観測

第3期に入って以降、低下

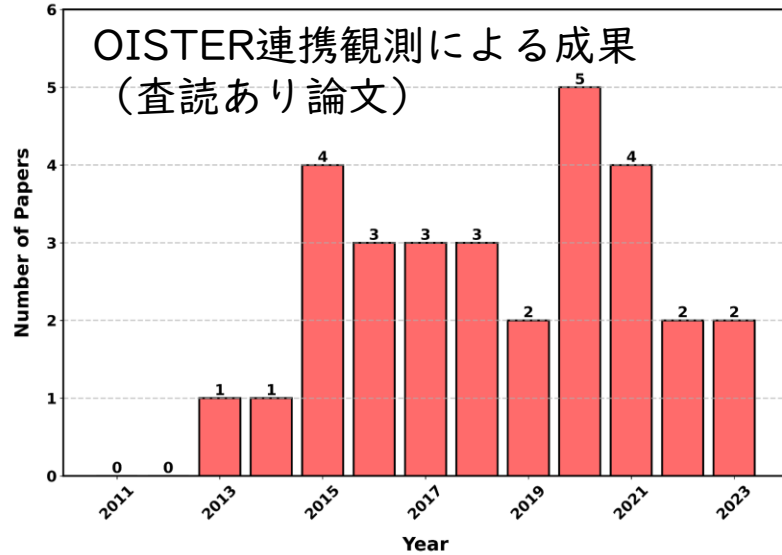
OISTER webをもとに「OISTERネットワークによる成果」の査読論文数をもとに作成

2024/12/08時点

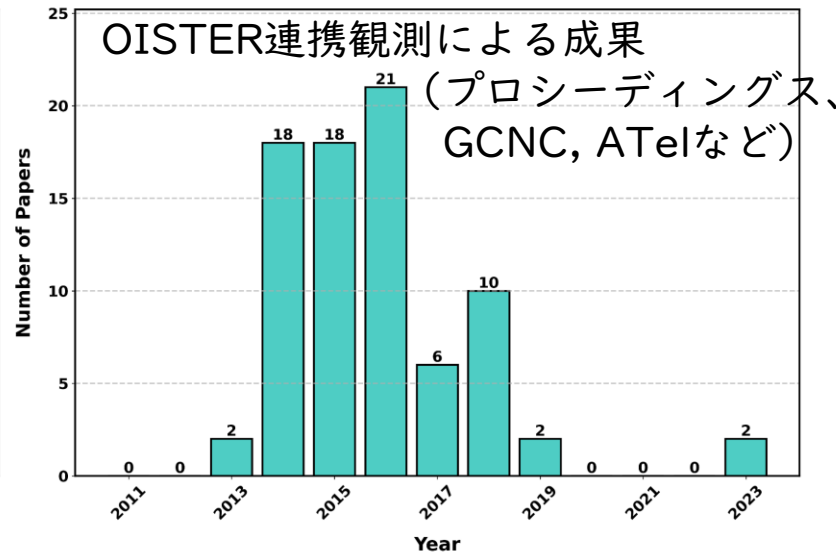
査読なし、連携教員論文数は5月頃までに集計予定

研究成果 2011-2023FY

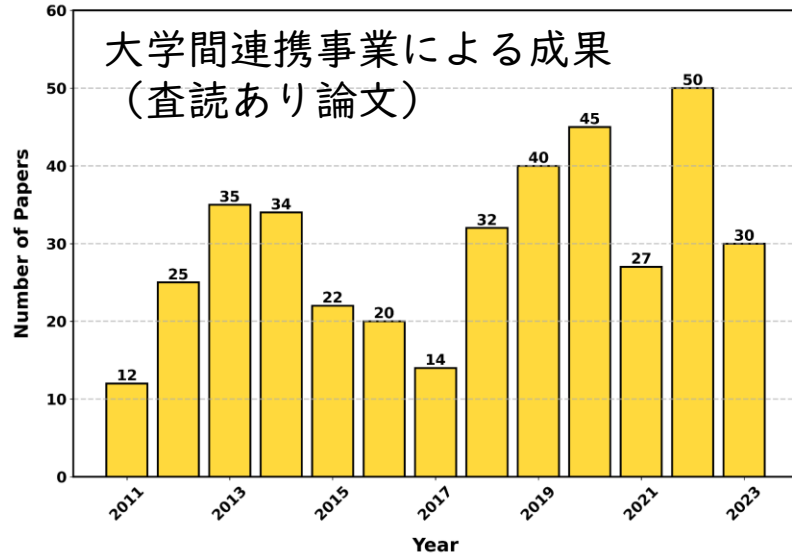
OISTER Network: Peer-reviewed



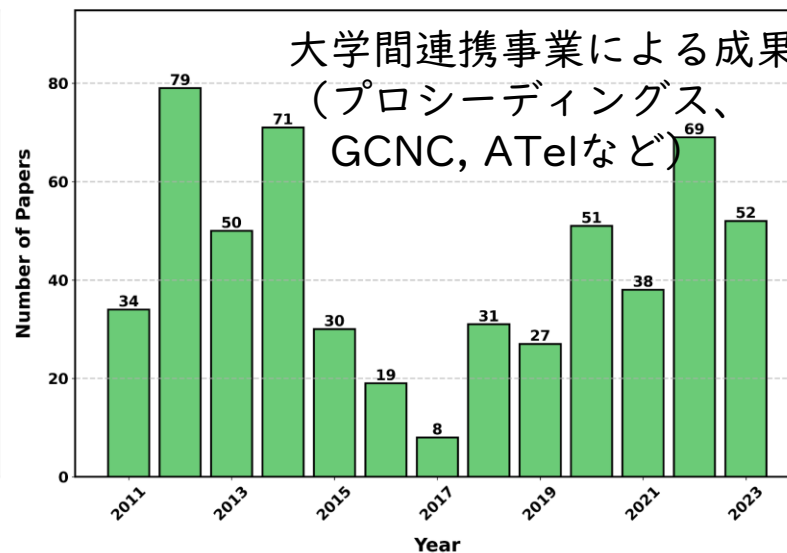
OISTER Network: Non-peer-reviewed



Optical/IR Inter-University: Peer-reviewed



Optical/IR Inter-University: Non-peer-reviewed



大学間連携事業による成果
=一部の機関を利用、大学間連携
事業で雇用された研究者による成
果などを含む

2024年現在7名が連携予算で雇用

OISTER談話会

OISTER観測に関連したテーマを中心にした談話会。学生教育の一環

テーマの選定は学生アンケート結果も参考にして委員会で調整

2024年度は2回、zoom開催、毎回40名前後が参加

- 第9回 電磁波観測屋はニュートリノ屋のプロダクトを用いてマルチメッセンジャー屋を開業できるか？ 岩切 渉 氏（千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター）
- 第10回 X線精密分光と多波長観測で挑むブラックホールX線連星の降着・噴出現象 志達めぐみ 氏（愛媛大学）

第5回以降は動画・スライドをOISTER内部 wikiで公開中

25年度は せいめい望遠鏡/SEICA 山本広大氏（京都大学岡山天文台）を予定

来年度の談話会テーマ・講師の方を検討中 後日アンケートを取りますのでご回答を。特に学生の皆様

これまでのテーマ・講師

OISTER Wiki

リンク先の動画、スライドへのアクセスは、アカウント名はoister-data、パスワードはoister webdavと同じものです。
ご不明な場合は各機関のOISTER担当にご確認ください。

動画、スライドはOISTER内のみ使用可能とし、外部への共有を禁止とします。

- 第1回 OISTER談話会 激変星概論と最近の観測ターゲット(磯貝桂介 (京都大学・東京大学 研究員))
- 第2回 OISTER談話会 X線連星入門(河合誠之 (東京工業大学 教授))
- 第3回 OISTER談話会 惑星におけるストームと雷放電活動 (高橋幸弘 (北海道大学))
- 第4回 OISTER談話会 重力波天体からの電磁波放射: 理論と観測の現状 (田中 雅臣 氏 (東北大学))
- 第5回 OISTER談話会 恒星フレアとそれに伴うプラズマ噴出現象の観測的研究 前原 裕之 氏 (国立天文台)
- 第6回 OISTER談話会 中小口径望遠鏡による太陽系小天体サイエンス 寺居 剛 氏 (国立天文台 ハワイ観測所)
- 第7回 OISTER談話会 セイファート銀河・クエーサーの時間軸天文学 峰崎 岳夫 氏 (東京大学)
- 第8回 OISTER談話会 超新星の早期観測から明らかにする大質量星の最期の姿 守屋 堯 氏 (国立天文台)
- 第9回 OISTER談話会 電磁波観測屋はニュートリノ屋のプロダクトを用いてマルチメッセンジャー屋を開業できるか? 岩切 渉 氏 (千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター) 資料
- 第10回 OISTER談話会 X線精密分光と多波長観測で挑むブラックホールX線連星の降着・噴出現象 志達めぐみ 氏 (愛媛大学)